

学校教育目標「これからの時代を生き抜く、たくましい東谷口っ子の育成」

- ・児童も教師も活力みなぎる学校
- ・全職員が同じ方向に向かって迅速に組織的に行動できる学校
- ・保護者や地域から信頼される安心安全の学校

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	学んだことを活用する力	学力調査の結果、分析を通して、今求められている力と本校児童の実態をふまえ、授業改善に取り組む。	学力向上(研・学)	昨年度、基礎基本の評価がA判定であることをふまえ、今年度は基礎基本を土台に身につけたことを活用する力を育む。	【努力指標】 学力調査の分析と授業改善案を授業づくりに生かす。	今求められている力と本校児童の実態をふまえ、授業改善に取り組んだ教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート(7・12月)			
	学びの定着	構想シートを活用し、児童に付けたい力を明確にした授業づくりを行う。	研究(研・学)	共通の取組を確認し、授業づくりを行う必要がある。	【努力指標】 共通した授業づくりを行うことで、付けたい力のための手立てや学び合いの仕方を考える。	教職員の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート(7・12月)			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	楽しい学校	全校集会を児童の考えを生かして計画し、児童委員会を中心に運営を行い、児童の交流の場、活躍の場を広げる。	生徒指導(生徒指導)	行事や縦割り活動が減少し、児童の交流の機会や高学年児童の活躍の場が減っている。	【満足度指標】 児童アンケート「学校に行くのが楽しいですか」と答えた児童の割合	児童の肯定的評価が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童アンケート(7・12月)			
③キャリア教育・進路指導	自分の取り組みや仕事に目標を持ち、意欲的に取り組む	特別活動の学級活動や学校行事を中心に、自身の変容や成長を自己評価できるよう目標設定と振り返りの場を設ける。	キャリア(研・学)	学校行事を通して成長した自分を実感したり、新たな目標を設定する場面が少ない。	【努力指標】 自分の目標を持ち、実践を通して自身の変容や成長を実感することができる。	児童の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童アンケート(7・12月)			
④保健管理	健康な生活習慣の確立	児童委員会活動を通して、児童が自ら清潔で健康な生活習慣(感染症予防)を身につけることができるように、意識の向上を図る。	養教(生徒指導)	昨年度途中より、児童委員会によるハンカチマスキチェックを実施し、児童の意識の向上につながったが、感染症予防に気のゆるみがみられるため、継続した取り組みが必要である。	【努力指標】 感染症予防をしっかりできていた児童の割合	衛生に関する項目について児童の達成度が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	ハンカチ手洗いチェック結果(7・12月)			
	1校1プランの推進し、運動習慣と体力向上を図る	体育の導入・終末で握力とソフトボール投げの記録を向上させるためのコーディネーショントレーニングを取り入れる。	体育(生徒指導)	一昨年の体力テストの結果では、県平均を下回る項目がある。	【努力指標】 記録カードをもとに握力とソフトボール投げの記録向上に務める。	握力・ソフトボールの記録が伸びた児童の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	記録カード(7月・12月・3月)			
⑤安全管理	避難訓練の計画的な実施と児童職員の意識の向上	火災・地震・不審者に対する避難訓練を通して危機予測・危機回避能力の育成とともに職員の危機未然防止・対応能力の向上を図る。	教頭(総)	昨年度、不審者に対する避難訓練が実施できなかった。防犯訓練は実施できた。危機対応マニュアルが見直されていないため、改訂し、共通理解を図る必要がある。	【努力指標】 児童・教員アンケート 訓練に際し、安全への意識を確認したり高めるよう努めたか。	児童・教師とも 肯定的評価が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	児童・教員アンケート(訓練ごと)			
⑥特別支援教育	個に応じた指導と支援	支援の一覧表を作成し、校内委員会で支援方法について話し合う。その後、支援状況と課題について全職員で共通理解を図り、家庭や外部機関とも連携し、組織的に取り組む。支援が効果的であったかどうか学期ごとに支援方法を確立させる。	特別支援(研・学)	一覽表で支援計画は立てたものの、個に応じた支援が難しい児童もいた。	【努力指標】 個に応じた適切な指導と支援を行うことができる。	教職員の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート(7・12月)			
⑦組織運営・業務改善	業務の効率化	定時退庁日(月2回)の計画的な設定と確実な実施。業務の効率化及び平準化のための組織やシステム作り	教頭(総)	昨年度途中より始めた2回の定時退庁日の柔軟な設定については、まだ意識が低い。個人の業務が偏りやすいため、組織的に取り組めるシステムを構築する必要がある。	【努力指標】 勤務時間を意識し、組織的かつ効率的な業務を遂行できたか。	超過勤務時間が60時間を超えない職員の割合が、 A 100% B 90%以上 C 70%以上 D 50%以上	勤務時間調査 6月 11月			
⑧研修	職員研修の充実	加賀市GIGAスクール構想に基づき、全職員のICT活用能力を向上させるための研修を年間を通して行う。	校内研修(研・学)	授業でICTを活用する教職員の割合や内容にばらつきが見られる。	【努力指標】 職員研修が授業におけるICT活用に役立ったと実感することができる。	研修が授業におけるICT活用に役立ったと答えた教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート(7・12月)			
⑨保護者、地域との連携	開かれた学校	便りや、HPを活用し学校の様子を保護者に伝える。保護者アンケートや学校関係者評価委員会により保護者や地域の声を学校運営に生かす。	教頭(総)	定期的なホームページ更新や、学校だよりの発行が定着したが、学級だよりについては担任の裁量に任せている。	【満足度指標】 保護者アンケート 「学校便りや学級便り、ホームページ等で、学校の様子がよくわかりますか」	アンケートの肯定的な回答の割合が A 95%～ B 85%～ C 75%～ D 75%未満	保護者アンケート 7月末 12月中旬			
⑩教育環境整備	学習環境の整備	月1回の校務分掌部会において、学力向上ロードマップの進捗状況を確認し、確実に取り組みを行うことができるようにする。また、4月当初に計画したことの変更を行い、適切な取り組みを行うことができるようにする。	学習環境(ロードマップ)	校務分掌部会が各担当者が提案した内容を話し合い、年間の取り組みを通して学力向上に向けた取り組みをチームで行う体制が整っていない。	【努力指標】 学力向上ロードマップに基づき、部会で取り組み内容を検討し、適切に学力向上の実践を行ったと実感することができる。	学力向上ロードマップに基づきチームで協力して取り組んだと答えた教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート(7・12月)			
	校舎内外の安全と適切な備品管理	定期的な安全点検をし、備品管理に努め、適切な整備を行う	主事・教頭	定期的な安全点検をし、修繕したり、備品補充したりしてきた。しかし、日常的な修繕が必要な場所や修繕しきれない箇所がある。	【努力指標】 安全点検を徹底し、環境整備と適切な備品補充に努める。	安全点検による環境整備・教材備品の適切な購入に努めていると感じた教職員の割合が A 90%～ B 80%～ C 70%～ D 70%未満	教職員アンケート(7・12月)			

学校関係者評価	
---------	--